

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 6	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The influence of societal level factors on men's and women's alcohol consumption and alcohol problems.</p> <p>社会因子が男女の飲酒習慣の差と飲酒合併症に及ぼす影響</p>	
執筆者	
Rahav G, Wilsnack R, Bloomfield K, Gmel G, Kuntsche S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Alcohol Suppl. 2006 Oct-Nov;41(1):i47-55.	
キーワード	
飲酒、性差、国際比較、社会因子	
要 旨	
<p>目的： 男女の飲酒習慣と社会因子の差を国際比較する。</p> <p>方法： 欧米、アフリカ、日本を含んだ 29 カ国で行われた GENACIS(gender, alcohol, and culture:an international study)研究データを解析した。</p> <p>結果： どの国においても女性に比べて男性の飲酒率、飲酒量が多かった。1年に1回でも飲酒する男女の頻度は1人当たりのGDPおよび平均寿命と教育水準と生活水準をもとにしたHDI(the Human Development Index)など近代化を示す指標と有意な相関があった。また女性の社会的地位が高いほど、また近代化が進んでいるほど国毎の飲酒男女差は少なかった。飲酒合併症(アルコール性肝疾患、依存症、アルコール起因の死亡など)に関しても同様に女性の社会的地位が高いほど、また近代化が進んでいるほど少なかった。</p> <p>結論： 男女差については個人行為についてのみならず社会の他の因子と関連した社会特徴として調査すべきである。</p>	